

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2025年6月30日	
山形市長 佐藤孝弘 殿	
提出者 山形市銅町二丁目2番30号 住 所 スズキハイテック株式会社 氏 名 代表取締役 鈴木 一 徳 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 023-631-4703	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	スズキハイテック(株)本社工場
事業場の所在地	山形市銅町二丁目2番30号
計画期間	2025年4月1日～2026年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	電気めっき業(E 2464)
②事業の規模	—
③従業員数	186 人 182
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙-1のとおり



(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図) 別紙-2のとおり	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
① 現状	【前年度（2024年度）実績】
	産業廃棄物の種類
	排出量
	(これまでの実施した取組) ・ 乾燥機による脱水汚泥の乾燥 ・ 処理薬品濃度見直しによる汚泥生成の減量 ・ 乾燥汚泥のリサイクル化
② 計画	【目標（2025年度）】
	産業廃棄物の種類
	排出量
	(今後実施する予定の取組) ・ 乾燥機による脱水汚泥の乾燥 ・ 処理薬品濃度見直しによる汚泥生成の減量 ・ 乾燥汚泥のリサイクル化
産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラ（可燃物）で古紙、ダンボールを分別し紙資源として利用 ・ 金属屑では可能な限り有価物として分別、資源としてリサイクル
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラ（可燃物）で古紙、ダンボールを分別し紙資源として利用 ・ 金属屑では可能な限り有価物として分別、資源としてリサイクル

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙-3 のとおり	t
	(これまでに実施した取組) ・現状ではない		
② 計画	【目標（2025年度）】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙-3 のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) ・予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙-3 のとおり	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) ・脱水汚泥の乾燥による減量化			
② 計画	【目標（2025年度）】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙-3 のとおり	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) ・引き続き脱水汚泥の乾燥による減量化			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙-3 のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) ・現状はない		
② 計画	【目標（2025年度）】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙-3 のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) ・予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙-3 のとおり t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・乾燥汚泥のリサイクル化による最終処分量削減 ・金属屑、乾電池の金属としての再利用 ・蛍光灯の水銀・カレットの再利用		

② 計画	【目標（2025年度）】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	別紙-3 のとおり	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃プラ（可燃物）で古紙、ダンボールを分別し紙資源として利用による委託処理量削減 ・ 金属屑では可能な限り有価物として分別、資源としてのリサイクルによる委託処理量削減		
	※事務処理欄		

(第6面)

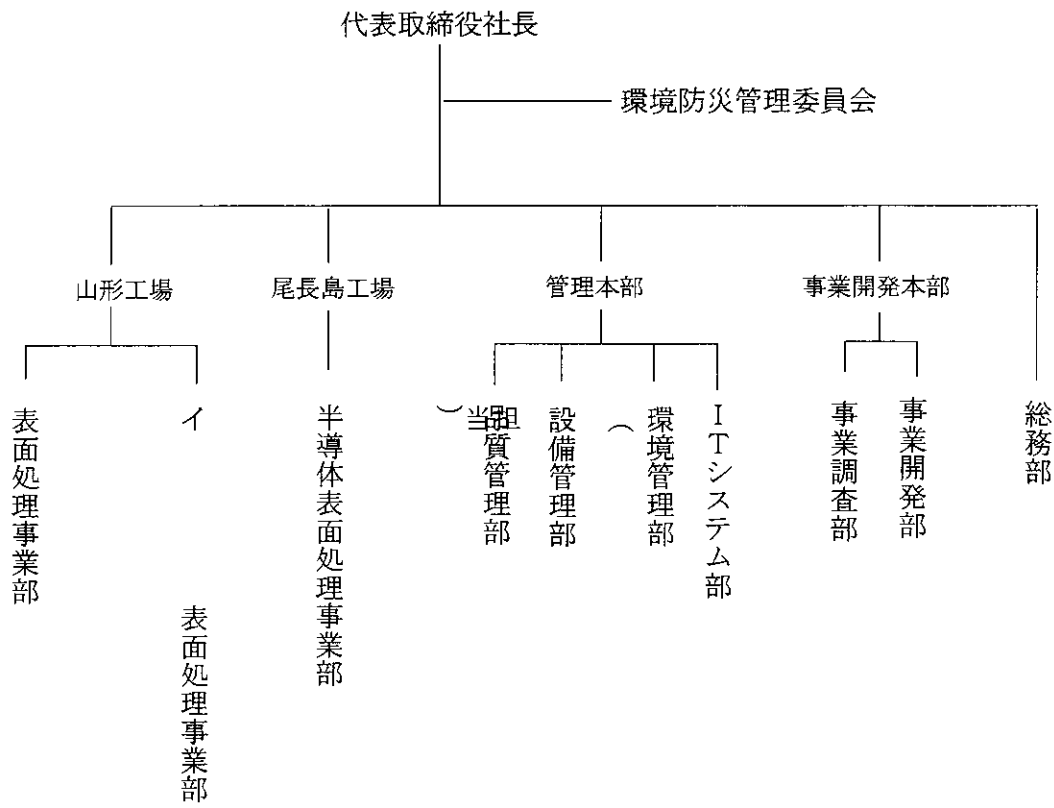
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

廃棄物処理工程

廃棄物の種類	発生源	性状	処理方法（現状の工程）
			-凡例- (中) : 中間処理 (最) : 最終処分 ○ : 自己処理 ● : 委託処理
汚泥	排水処理 (メッキライン)	泥状	汚泥を乾燥 (中) ○ ⇒脱水汚泥を金属として再利用
		泥状	焼却処理 (中) ● ⇒燃え殻を埋立 (最) ●
廃プラスチック類	会社全体	—	焼却処理 (中) ● ⇒燃え殻を埋立 (最) ●
廃油	メッキライン	液状	焼却処理 (中) ● ⇒燃え殻を埋立 (最) ●
金属屑	会社全体	—	選別 (中) ● ⇒金属として再利用
ガラス屑	会社全体	—	⇒埋立 (最) ●
乾電池	会社全体	—	再処理 (中) ● ⇒金属として再利用
蛍光灯	会社全体	—	再処理 (中) ● ⇒水銀・カレットの再利用

廃棄物管理組織



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項																
①現状	【前年度（2024年度）実績】															
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	金属屑	ガラス屑	蛍光灯	乾電池	廃油								
	排出量	3283.56 t	42.779 t	58.307 t	0.301 t	0.086 t	0.008 t	0.149 t	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標（2025年度）】															
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	金属屑	ガラス屑	蛍光灯	乾電池	廃油								
	排出量	3250.700 +t	42.400 t	57.700 t	0.100 t	0.100 t	0.100 t	0.100 t	t	t	t	t	t	t	t	t

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項																
①現状	【前年度（2024年度）実績】															
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	金属屑	ガラス屑	蛍光灯	乾電池	廃油								
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標（2025年度）】															
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	金属屑	ガラス屑	蛍光灯	乾電池	廃油								
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	t	t	t	t	t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項																
①現状	【前年度（2024年度）実績】															
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	金属屑	ガラス屑	蛍光灯	乾電池	廃油								
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	3251.280 t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標（2025年度）】															
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	金属屑	ガラス屑	乾電池	乾電池	廃油								
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	3244.700 t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	t	t	t	t	t	t	t	t

[illegible]